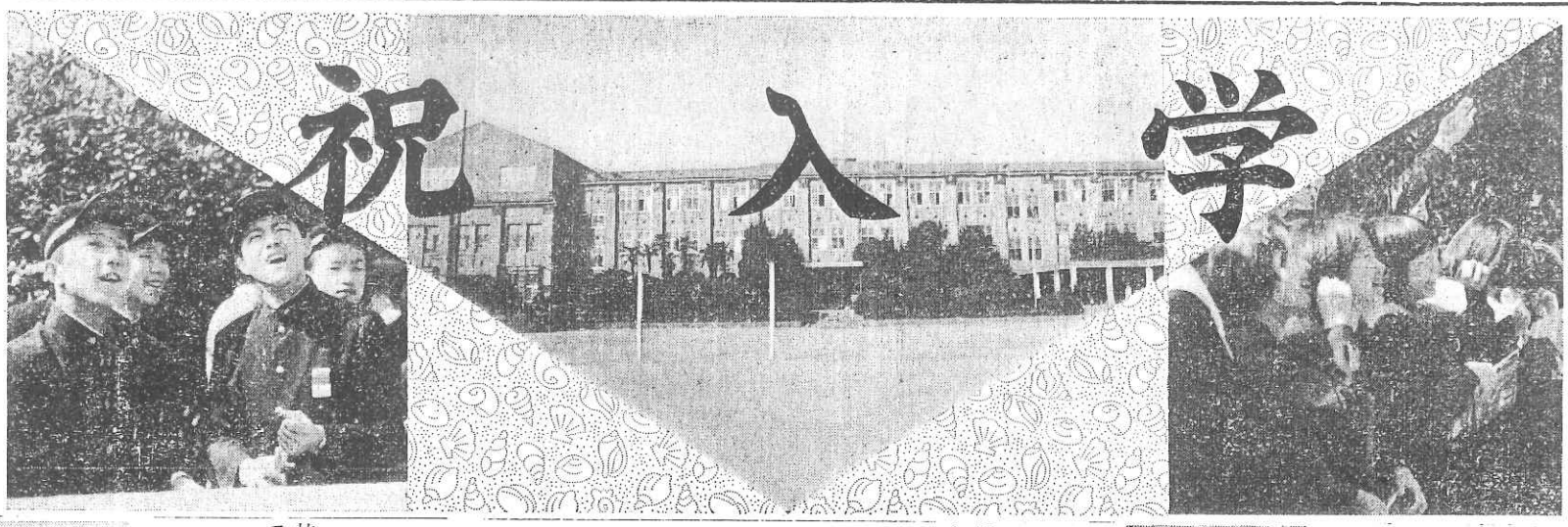


高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校

新聞部
編集責任者　斉田和広
発行責任者　外海靖規

充実した高校生活を送りたい方、南舎二階新聞部部室までどうぞ

新入生への言葉
休むことなく前進を

新入生の皆さん、入学おめでとう。これからの高校生活を過ごしていくにあたって、平田泰世校長先生より、お祝いの言葉を頂きました。

新入生諸君。きょうから三年間、阿倍野高校の生徒として君たちの高校生活が始まる。きようの感激、きょうの喜び、きょうの覚悟や願いなどを日記として書き留めておくよう勧めたい。日記は写真と同様、時間がたつほどその価値が増大するものである。普通のノートでよい、日付けとともにさっそく書き始めるがよい。

さて、人間は、いつどんなふうにして成長するのだろうか。その気になって鍛えれば、人間はびっくりするほど成長するものだ。しかし、同じように鍛えてもなかなか成長しない人もいる。

入学おめでとう。自然が新しい生命を燃やし始める時にみんなは心新たに高校生活を始める。新しい友を知り、勉強の楽しさも少しはわかるかも知れない。それ以上に自分というものを知るだろう。そのために一言。これからの三年間毎日をただなんとなく過さないようにすること。何か一つでいい。自分のうち込めるものを見つけてとことん耐えぬき頑張ってみてほしい。何事であれ、自ら苦労して初めて自分のものになるのだから。

阿倍野高校生として、これからの三年間をどの様にして過ごそうかと希望に胸ふくらませ、暖かい春を迎えられた一年一組の皆さんこんにちは!!

それぞれに、この一年間の計画を立て、与えられた時間を大切に使い、計画ある生活の中で大いに羽ばたかれることを期待し、共に前進してゆきたいと思います。どうぞよろしく!

一年生のどの年齢でも、いちように成長するものではない。人間の精神作用にかかわるものは、高年齢になってからでも成長させることは可能であるが、身体に関するもの、たとえば体格とか運動能力とかを伸展成長させれるのは若い時代に限る。いま一例として「身長」をとってみよう。グラフています。「僕たちには特権があります。それは十五人の力を一つにし、一つの魂で一つの勝利を得、その喜びを十五人で分け合うということです。そしてその喜びは僕たちだけにしかわからないのです」。

ここに至る経過―身体をこわした失意の彼とそれを支えた仲間の存在―を知るが故に、先の言葉は私の胸を打つのです。

言い古された言葉だが、よく遊び、よく学べと言いたい。

遊べなどと言う必要は無いと思うかも知れないが、決してそうではない。ダラダラと時間をつぶすのは決して「よく遊んでいる」のではない。平安時代の「あそび」は「管絃の遊び」つまり技芸を磨くことなのであった。現代といえども自分の将来を見通して遊ばねばならんのである。

勉強の方は先生方が楽しくやる法を教えて下さる。私も「家は帰って寝るだけの所ではない」ことを体験させてあげる所存である。

いよいよ高校生活が始まった。これから君たちはどう生活しようとしているのだろうか……。

朝起きたらふとんを上げることぐらい自分でしているだろうな。朝食を必ずとって学校へ。学校では、授業が充実するかしないかが三年間の生活が充実するかしないかのカギになる。そのためには先生の言葉を一言もらさず聞くように努力すること。これが最低条件だ。それから学校には、君たちの自主的な活動もあるクラブ活動などの自治会活動も積極的にやってほしい。

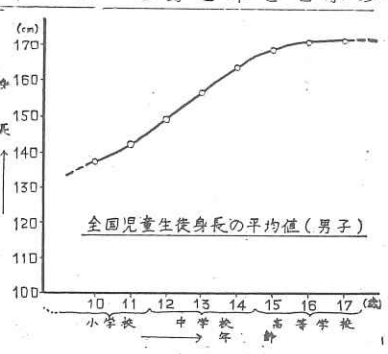
諸君は自分の意志と力で今度この阿倍野高校に入学してこられたのです。これからの三ケ年の過し方によって今日の喜びがなお一層大きなものになることを期待しています、またそうなるべく私も君たちの手助けに力一杯努力したいと思っています。

何事をするにも努力というものがよう。諸君にとって心身を鍛え知識を身につけこれから先の人間形成の土台を造る最高の時期なのです。だから無駄に時間を費やすことは個々人の持っている時という大きな財産の浪費になります。目標を定め日々向上一路努力して下さい。

☆　☆　☆

入学おめでとう

人の一生からみれば短かいけれども、その人の人格を形成する場合には非常に大切な三年間が始まります。一日一センチの成長は、三年間で一〇メートルの成長につながります。平凡な事、地味な事でも同じペースで長期間積み重ねてゆく事が、後になってすばらしい成長、大きな飛躍として現われてくることを忘れずに一日一日を過して下さい。



は全国の児童生徒の最近の身長の平均値（男子）を示すものである。曲線は一七歳（高校三年）を過ぎると次第に横軸（年齢軸）に平行となり、以後身長はほとんど伸びない、すなわち身長はほぼ高校三年でとまることを表わしている。

次に、人間の精神作用にかかわるものは、年をとってからでも成長するが、中学から高校時代がもっともさかんに成長する。この年代は一生を通じ、脳がもっとも活動的に働く期間である。記憶力などはきわめて旺盛で、まるでスポンジが水を吸収するように際限なく知識が自分のものとなっていく。

要するに、高校時代というのはそんな時代なのである。君たちのその時代が、いま阿倍野で始まった。一刻も休むことなく進み給えは、人間の精神作用にかかわるものは、年をとってからでも成長するが、中学から高校時代がもっともさかんに成長する。この年代は一生を通じ、脳がもっとも活動的に働く期間である。記憶力などはきわめて旺盛で、まるでスポンジが水を吸収するように際限なく知識が自分のものとなっていく。

要するに、高校時代というのはそんな時代なのである。君たちのその時代が、いま阿倍野で始まった。一刻も休むことなく進み給え

担任から新入生へ

一組担任
横山　志津子先生

技、皆さんへの言葉を書いて頂きました。

①生年月日、②出身大学、③出身地、④担当教科、⑤趣味または特

二組担任
藪田　俊信先生

①昭和十八年二月九日
②金沢大学法文学部
③金沢市
④英語
⑤山歩き、ハイキング

三組担任
平塚　淳次郎先生

①昭和十年二月十八日
②大阪外国語大学
③兵庫県宝塚市
④英語
⑤囲碁・将棋

この二月卒業した君たちの先輩の一人が、クラブ活動について次のように書い

四組担任
星　武先生

①昭和二十四年八月一日
②東京教育大学
③群馬県
④保健体育
⑤バスケット・卓球・スキー

一年生諸君御入学おめでとう。合格の喜びもさめやられぬまま、高校生になったという、期待と、今後の不安が入りまじった感慨を持って入学式を迎えたことと思う。勝ってカブトの緒を締めよということわざがありますが、皆さんも、阿倍高に、一時も早く慣れ、充実した高校生活を送られん事を願います。

五組担任
安芸　研一先生

①昭和十一年四月一日
②大阪学芸大学
③大阪市東区
④現代国語・古典（古文・漢文）
⑤三オクターブ以上声が出せる。

六組担任
坂本　昭先生

①昭和二十八年四月四日
②岡山大学
③岡山県山間部

七組担任
倉本　優先生

①昭和十二年七月一一日
②広島大学
③鳥取県
④生物
⑤囲碁・昼寝

八組担任
宇佐美　文男先生

①昭和八年十月二日
②東京理科大学
③和歌山県
④数学
⑤ゴルフ

針の穴

ありがたくもない入学試験だが、その困難を突破した充実感はほかりしれないものがあるだろう。その緊張と希望を忘れずに新世界に臨んでいることと思う▼阿倍高は現在、沈滞気味でいわば一種のスランプともいえる「阿倍高ムード」といったものにおおわれている。その事情の一つにおのおの自分自身が安泰であればよいという考えを持つ者が多いためか、積極性がなく全体的なまとまりに欠け学校生活にしまりがなくなってきていることがあげられるだろう▼そうかといって、そのムードを取り払う努力をしなかったわけではない。今までに執行部を中心として、各部会が働きかけていたのである。しかし、たいした影響も与えずにすぶった計画が多かったようだ▼そこで新入生に大きく期待することとなる大昔から、悪い習慣や伝統を捨てて新しい生活を始めるものは、その内部にいるものではなく、多くは外部から来たものなのである▼改めてゆく事は、阿倍高ムードだけにとどまらない、本校も創立より五十余年、自治会会則のなかなどには改定を要する習慣規定が数多くある。それらを改良してよりよい阿倍高ライフを創りあげることも重要である。新入生だから、後輩だから、といった考え方でなく、未来の自分の後輩達のためにといった積極的な考え方が必要である▼今までに、少なからぬ先輩達が阿倍高改革を試みていたが、中には志半ばで挫折した人もいるしかし、人間にとってだいじなことはその成果でなく何かを試みたという事であり、その試みの過程で得られるものは、その人格にとってはかりしれないものがあるだろう。この機会に、積極的な生活をしてみてはどうだろうか。

大きく変わる環境
―学校紹介―

新入生の諸君は大きく環境が変わって、不安や戸惑いを感じていることと思う。そこで阿倍高生活の全容を知って、早く学校生活に慣れてもらうため、自治会組織・学習・クラブ・学校生活を各部門に分けて解説した。

内部組織の確認を
―自治会組織―

自治会とは、新入生への自治会説明会の計画・今年度の予算の予定などで部内は活気づいている。

そして、行政機関である執行部に対して、自治会の最高決議機関である〝議会〟がある。議会は議員により構成され、議員は各クラスから男女一名ずつと議長副議長の計五〇名である。議会は二週間に一度定例議会が開かれるが、その際に議員の三分の二以上の出席がなければ流会となる。最近では、流会をやっと免れるほどの人数しか集まらない。議会の役目と言えば、自治会内の問題について討議し議決することである。

また、議会には部会というものが設けられている。部会には、先出の執行部から、会長・書記を除く全役員がそのいずれかに所属しなければならない。

部会には次のものがある。

会計部会―クラブ予算などの会計面の事務にあたるあまり目立たない存在だが最も重要な組織の一つである。

文化部会―文化的な面での指導に当る。当面は、昨年いろいろな問題で実行できなかった壁新聞を今学期に計画している。本来の目的は文化祭の成功であるがそれ以外にもこのような計画を立てるなど活発な活動をしている。

運動部会―一般体育の管理など。今は、クラスマッチの計画を立てている。やはり目的は体育祭の成功。

集会部会―生徒の集会が円滑に行われるように計画指導する。体育祭のコーラスファイアーなどでフォークダンスを主催している。活動が目立たないので生徒間での存在がうすい。教師中心ではなく集会部会主催の集会などを望んでいる。

風紀部会―風紀面の管理当面は制服改正問題をとり扱っていく。停滞気味なので一つの問題について徹底的に活動してほしい。

どの部会も、積極的な生徒の参加を望んでおり、「自分のためになるし、やりがいのある仕事である」（文化部会）「自らが主体となって学校にうち溶けてほしい」（集会部会）「制服の現状を知ってもらい、しっかりした考えをもち、それに伴う態度をとってもらいたい」（風紀部会）など出したのです。

ところで、君たちは本当に阿倍野高校に来たかったのか？これから書くことは君たちの阿倍高に対する考え方を変えてしまうだろうまず、「自治会とは？」ということから始める。

自治会は、生徒が主体で文化祭、体育大会などの行事の準備から、クラブなどの会計まで、その他いろいろな仕事をしている。そして、先生方にはその顧問となってもらっている。

しかし今、自治会へ協力してくれる生徒が減ってきている。だからこそ、君たちに協力してほしい。

いうまでもないことだが自治会の中心となるのは、H・Rではまず、会長・副会長（各一名）・議員・会計・文化・運動・集会・風紀の各委員（男女各一名）を決めてもらう。その中の議員というものは、最高決議機関である議会に出席してクラスからの意見などを執行部に伝えたり、執行部から出された問題をH・Rに持ち帰って討議するなどのH・Rと執行部とをつなぐ重要な役割である。

以上のように、阿倍高は我々の手で進められているだから、君たちも自治会に積極的に参加し、活躍してくれることを期待している。

◇　◇　◇

自治会会長の挨拶
房本　禎之

新入生の皆さん、入学おめでとう。君たちは輝かしい高校生活の第一歩を踏みだしたのです。

発展は自らの手で
―クラブ―

新入生諸君は、クラブについていろいろと考えているだろう。〝どんなクラブがあるのか〟とか、〝どんな活動をしているのか〟とか、また、もうすでにどのクラブにはいるか決めている人もいるかもしれない。そこで、クラブについて少し述べてみたい。

まず最初に我が校のクラブ・同好会を紹介しよう。

文化部
　ESS　美術
　琴　書道
　映画研究　演劇
　音楽　軽音エレキ
　華道　軽音フォーク
　茶道　写真
　生物　地理研究
　洋舞　ブラスバンド
　新聞　放送
　文学（再建）
運動部
　剣道　硬式庭球
　サッカー　登山
　柔道　水泳
　女子バスケット
　女子バレーボール
　体操　卓球
　男子バスケット
　男子バレーボール
　軟式庭球　ラグビー
　陸上　野球
　ワンダーフォーゲル
　ハンドボール
　空手道
同好会
　アマチュア無線

このように阿倍高には、同好会を含めて三十九のクラブがある。これらの活動は自治会という組織の一環として行われている。

クラブ活動は、高校生活をより有意義にすることができる。また横のつながりだけでなく、先輩・後輩という縦のつながりも作ることができる。そしてそれぞれのクラブには、そのクラブのよさがあるはずである我が校はグランドがあまり広くはないので、第一グランドでも多くの運動クラブが活動しており、思いきり練習ができないなど、苦労があるようだ。体育館も交代で使用したり、半分ずつ使用したりしている。また、運動部の活発な活動の陰になって、文化部の活動があまり目立たなくなっている。これは、文化部は人数があまり多くなく、校舎内で活動していることも関係しているようだ。

新入生諸君が入部できるのは、十五日（土）のオリエンテーションが終わってからだが、見学は自由にできる。いろいろなクラブを見学して、自分が〝これだ〟と思うようなクラブを見つけてほしい。クラブは、自分たちの手で作り上げ、発展させていくものであるこれからは、君たちもいっしょに阿倍高のクラブを発展させていくのである。

日々の学習が重要
―学習―

高校の学習は中学の学習と表面的には大して変わりないが、学習に対する考え方、取り組み方が大きく違ってくるため、そのことについて述べていく。

まずスポーツでは身体を鍛えることに特に重点が置かれており、授業日数も女子は週に二時間、男子は四時間ある。特に入学当初は大いにしごかれて、苦しい思いをする人もいるだろうが、次第に慣れてくる。頑張ってついていくことだ。

見学して、自分が〝これだ〟と思うようなクラブを見つけてほしい。クラブは、自分たちの手で作り上げ、発展させていくものであるこれからは、君たちもいっしょに阿倍高のクラブを発展させていくのである。

自治会会長の挨拶
房本　禎之

新入生の皆さん、入学おめでとう。君たちは輝かしい高校生活の第一歩を踏みだしたのです。

ところで、君たちは本当に阿倍野高校に来たかったのか？これから書くことは君たちの阿倍高に対する考え方を変えてしまうだろうまず、「自治会とは？」ということから始める。

自治会は、生徒が主体で文化祭、体育大会などの行事の準備から、クラブなどの会計まで、その他いろいろな仕事をしている。そして、先生方にはその顧問となってもらっている。

しかし今、自治会へ協力してくれる生徒が減ってきている。だからこそ、君たちに協力してほしい。

いうまでもないことだが自治会の中心となるのは、H・Rではまず、会長・副会長（各一名）・議員・会計・文化・運動・集会・風紀の各委員（男女各一名）を決めてもらう。その中の議員というものは、最高決議機関である議会に出席してクラスからの意見などを執行部に伝えたり、執行部から出された問題をH・Rに持ち帰って討議するなどのH・Rと執行部とをつなぐ重要な役割である。

以上のように、阿倍高は我々の手で進められているだから、君たちも自治会に積極的に参加し、活躍してくれることを期待している。

◇　◇　◇

充実した生活を
―学校生活―

新しいクラスの感想はいかがかな？みんな知らない者どうしで友達を見つけるのに苦労する数日が続きそうだが「友達ができなかったらどうしよう」なんて心配しないで気楽にいこう！

さて、ここで阿倍高生活の詳細を述べておこう。

まず、年中行事の大まかな紹介から。五月初旬にクラスマッチ（クラス対抗球技大会）が予定されているこれによって、クラスの親睦が高まり、友達の意外な一面を見い出したりすることもあるだろう。六月中旬には自治会執行部選挙が実施される。一学期末テストが終われば夏休みに入る。この休み中に各クラブの強化練習や合宿、研修旅行などが計画される。九月に入るとすぐ、体育大会、文化祭の準備に追われる。体育大会の団体競技や応援合戦の練習、文化祭でのクラブやH・Rの催し物の準備…と、学校全体が大いに盛り上がる時期である。

さて、行事のことはこのくらいにして、金曜日の四限目にはH・Rの時間がある。上定食二七〇円コロッケ定食二〇〇円焼きめし二〇〇円きつねうどん一二〇円ケーキ六〇円etc。

高校生活をエンジョイするもしないも君たちの心しだいだ。成功を祈る！

部説
意見の表面化望む

現在、我が校には昨年度またはもう数年も前から持ち越されてきた、幾つかの問題がある。風紀面での制服改正問題・自転車通学問題・問題とはいえないが、文化部会による壁新聞作りに関するetc。

制服改正問題については風紀部会が中心となって、現在の制服に対する不満やその対策などをアンケートして検討してきたが、最近その活動も停滞気味である。制服制度を破棄し、私服にするという意見も近頃では声をひそめ、制服を改正するという問題、特に女子の夏服のブラウスに対する不満がつのっているが、実際のところ風紀部会などによる活動は何も行われていない。

自転車通学問題というのは、本来、規則で禁止されている自転車通学を無断でしている者や、今後の自転車通学をどう取り扱っていくかなどを討議するものであったが近頃は黙認されているのか、取り締まりもきびしくないようだ。このような中途半端な状態のまま、風紀部会が及ばなかったため現在に至っているが、新一年生を迎えて、今後より良い方向へ進めていかねばならない。そこで、新一年生諸君に望むことは（これらに関する話し合いが後日行われることと思う）現状をよく理解し、それらの問題に対する自分の意見を完全なものとしそれを公的な場でどんどん発表して、問題解決につなげていくことである。

そのための一番手近な方法はH・Rでの話し合いを活発にかつ充実させることにある。中学校でH・Rの時間がどう使われていたにせよ、現在の阿倍高が幾多の問題を抱えているかぎり、この時間を無駄に過ごしてしまうのはどうだろうか。一人一人が自分たちの学校のために、すなわち自分自身のために、話し合いに参加し、意見を発表するのだから、変に人の目を気にしたり、羞恥心を抱くことはないのだ。

そのうち、現在の問題の他に、いろいろ改正の必要な規則や慣習が新一年生諸君の目にも映ってくるだろう。また、問題といえないような（あらゆることに関する）不満でも提案でも、できるだけ表面化させてほしい。H・Rだけではなく部会や議会への参加ももちろんである。

〝自分たちの手で阿倍高を発展させていく〟というぐらいの意気込みで何事にも臨んでもらいたい。

編輯後記

入学式どうだった？今日からこの阿倍高が君たちの生活の場となるわけだから、けっこう緊張したんじゃないかな。

さて、新聞部では部員を募集しているので、見学がてら南舎二階の新聞部々室へぶらりと遊びに来てよ。

とにかく高校の三年間を無駄に過ごすほど、バカらしいことはない。何となく過ぎるのと、充実した一日とでは、同じ一日でも雲泥の差だろう。だからこそ新聞部へどうぞ。

入部資格は阿倍高生ならだれでもOK。女子だけ面接する、なんてのはデマだから心配しないでね。

それから、新聞部への意見や希望があったら、遠慮なんかしないで、どしどし来てください。部員一同首を長くして待ってます。